



**細江天野記念館** 完全予約制 / 入館無料

■ 開館時間  
 午前 1部 10:00 ~ 11:00  
 2部 11:00 ~ 12:00  
 午後 1部 13:00 ~ 14:00  
 2部 14:00 ~ 15:00

■ 開館日  
 火・木曜日(祝日の場合は休館)  
 ※長期休暇(年末年始・ゴールデンウィーク・夏季休業)を除く

■ お申し込み方法  
 当財団のホームページにてご予約ください

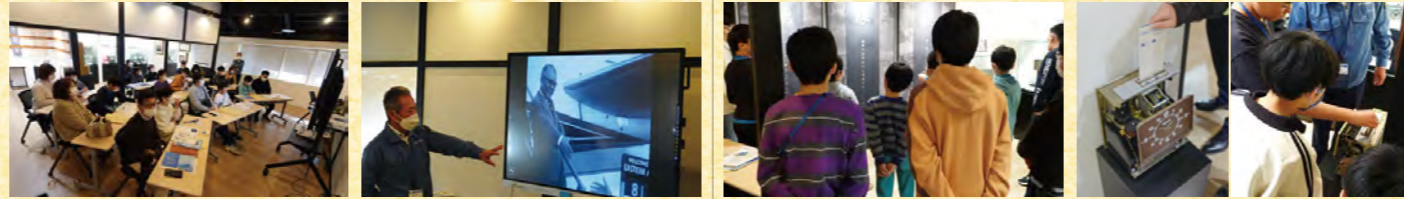


公益財団法人 天野工業技術研究所  
 〒431-1305  
 静岡県浜松市浜名区細江町気賀 7955-98  
 TEL: 053-523-1171 FAX: 053-523-0556  
<https://zai-amano.or.jp/>



記念館見学の基本コースについて(約1時間)

ビデオ映像と資料を視聴したあと、説明員が実体験を交えて各展示を紹介。



当記念館は未来の科学者・工業技術者を育成するアマノ科学教室の拠点となっています。  
 一般募集した浜松市近郊の小学4年生から中学3年生を対象に、考えること・探究することを重視した  
 「物理・ロボット・化学」の3つの講座(定員各24名)を、専門講師により年16回のカリキュラムで実施しています。

アマノ科学教室の紹介

物理講座



重力・浮力・慣性の法則  
 -浮力について-



流体力学と水ロケット



電子回路 -神経衰弱ゲームの製作-

ロボット講座



RaspberryPi入門  
 -PythonProgramに挑戦-



PythonProgramによる  
 Robotカーの制御



ライトレース競技の開催

化学講座




物質は何でできているか  
 -分子模型の製作-



炭水化物・核酸の化学  
 -人エイクラの実験-



電池の化学 -くだもの電池・野菜電池-




タイムレコーダー創始者  
天野修一

# 細江天野記念館

(題字直筆)

天野修一の挑戦が、  
未来の技術者たちに語りかける。



公益財団法人 天野工業技術研究所

## 天野修一の生い立ちと「細江天野記念館」の創設

当財団を設立した天野修一は明治23年に現在の三重県鈴鹿市石薬師町で出生、昭和6年11月に天野製作所を東京蒲田に設立した（資本金3千円、従業員4人）。

晩年は社長として自らの理想工場を目指した「細江工場（現細江事業所）」を見渡す細江山荘（現在のこの場所）に身を置き、昭和51年12月の山荘滞在中に86歳で永眠。最期までこの細江の土地を好み工場の社員らとも交流を深めて過ごした。

今般、当財団設立65周年を迎えるにあたり、アマノ株式会社から貴重な所蔵品の一部を譲り受け、新たにこの細江に「細江天野記念館」を整備した。天野修一の功績や考え方等を紹介するだけの場でなく、当財団の目的でもある将来の工業技術の発展を担う子供たちが実体験を学ぶ場として貢献を願うものである。



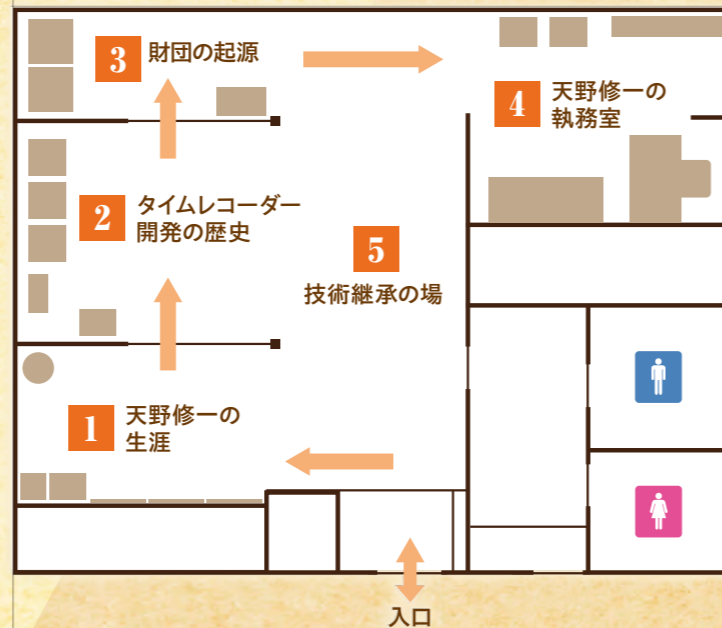
公益財団法人 天野工業技術研究所



### 公益財団法人「天野工業技術研究所」のあゆみ

アマノ株式会社の創業者天野修一が、その生前1961年（昭和36年）に我が国の工業技術に関する研究開発、研究助成ならびに工業教育の奨励を目的として私財の一部を投じて当財団が設立された。そのきっかけは、時刻記録時計をはじめとする数多くの発明考案を完成させ、その事業の成功により輸入品を一切駆逐した功績が認められて1958年に「紫綬褒章」を受賞したことで、それまで自らが貯蓄した財を日本の工業技術の研究開発と発展のために使おうと考え、当財団の設立に至った。本人も「この一粒の種がお国のためになるならば、私は思わざる重ね重ねの幸運をつかんだことになる。」と述べている。1979年（昭和54年）10月に奥浜名湖畔の現在地に移転し今日に至っており、公益目的事業として主に試験研究事業、研究助成事業並びに奨学事業、工業教育振興事業などを行っている。

### 細江天野記念館 館内マップ



## 1 天野修一の生涯

誠実に地道に努力してやり抜けば必ず幸運に恵まれるという信念を「鈍根運」と表現し、会社経営にも活用した。その教訓となったそれぞれの時代の写真とエピソードを紹介。会社設立当時に手掛けた気象用計器や、5年の歳月と多額の研究費を投じながら進出を断念した幻の一眼レフカメラ（アマノ66）も展示。



▲修一の生涯写真紹介コーナー



▲幻の一眼レフカメラ「アマノ66」展示コーナー



◀各気象用計器展示コーナー



▲鈍根運時代のエピソード閲覧コーナー

## 2 タイムレコーダー開発の歴史

1931年（昭和6年）に国産初のタイムレコーダーの製造に着手。戦後は自らタイムレコーダーやタイムスタンプなどの開発に携わった。その貴重な製品の数々を展示しており、新旧製品の打刻が体験出来る。



▲メカ式と電子式タイムレコーダー打刻体験コーナー

## 3 財団（天野工業技術研究所）の起源

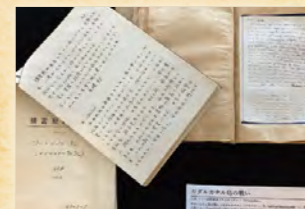
当財団設立時に経産省に提出した目的と趣意書、開所当時の写真、近年当財団が開発した出力測定試験装置（動力計）を展示。また、天野修一自身が天野特殊機械の社内報に掲載した「研究昔ばなし」の全二十話をまとめて紹介。



▲研究昔ばなし全集閲覧コーナー

## 4 天野修一の執務室

会社創立当時、多忙を極め、徹夜で仕事を続けた天野修一の執務室を、自身の愛用品を配置して再現。終戦時に銃器押収で訪れた米軍将校との友好的な再会のエピソードと米軍兵が見た生々しい戦記も展示。



▲ワトソン日記よりガナルカナル戦記を紹介



## 5 技術継承の場

小中学生に科学や工学への関心を高めてもらう「アマノ科学教室」の一部講座をここで開催。映像にて天野修一の功績や考え方、展示品の数々に触れる拠点にもなっている。



▲鈍根運モノガタリほか本人映像コーナー